別紙③

この間のキャンパス将来構想の経過について

2010 年 10 月 13 日
常任理事会

常任理事会は、本年 7 月にキャンパスの将来構想を全学に提起いたしました。以降、様々なご意見やご質問を頂戴し、提起後も幾つか説明の文書を配布してきました。常任理事会では、みなさんのご意見を踏まえ、この間、精力的に誠心誠意、議論してきましたが、特に判断時期及び新キャンパス展開と教学論議の関係性については、厳しいご意見があったと受け止めています。

本構想にある新キャンパス候補地については、学内の議論を経て判断するという前提で交渉先と話をしております。本学以外にも当該用地について打診しているところが複数あることもあり、10 月を目処に検討に全力を尽くすとしていましたのは、この間、説明をさせていただいたとおりです。

しかしながら、今時点の状況としては、みなさんのご意見と同様、常任理事会としても未だ最終的な結論を得ていません。したがって、全学の議論を深めるには今少しの時間が必要と考え、交渉先に判断時期の延長について、打診を行いました。極めて厳しい交渉となりましたが、常任理事会としては、少なくとも 10 月中に本構想について結論を出さないこととしました。判断は延期しますが、常任理事会としてはこれまでと同様、速やかに集中して本構想の検討を継続し、全学の議論を深めることに努力いたします。

この間、みなさんから寄せられたご意見などにより、論点は大いに深まってきたと考えています。また、全学協議会代表者会議も開催するなど学友会や院生協議会とも意見を交換し、学生・院生の年来の要求を踏まえて、教学改革、既存キャンパスの抜本的改善の検討の視点も深めてきました。その結果、次の点で、常任理事会として全員で一致できています。

別紙③

① 各学部・研究科等の教学改革と、キャンパスの狭隘性（特に衣笠）の早い解決の必要性。
② そのために新たなキャンパス創造が必要であること。
③ その判断のため、集中的に検討し、速やかに方向性を定めること。
④ 新中期計画は、年内/年度内にまとめ上げること。

こうした検討を積み重ねることによって、何より学生・院生のためにという視点で、そして立命館の将来的な展望のために、合意形成に向けて様々な課題を乗り越えられると確信しています。

今後も常任理事会は責任を持って検討を進めますが、これまでの議論の進め方、特に、常任理事会で共有している情報や検討状況がみなさんに伝わりにくいという、情報の伝達について課題を感じています。本構想は極めて重要な検討課題であり、状況をみなさんと共有していきたいと考えています。そこで今後は、この構想に関わる常任理事会での検討内容や情報をお伝えするために、常任理事会の資料をいち早くみなさんのお手元にお届けいたします。

立命館を支えるのは、構成員一人ひとりです。みなさんのご理解と一致が、本構想の前提として必要と考えています。是非、学生・院生のため、立命館の将来ために、継続した議論をお願いしたいと思います。常任理事会としても、みなさんと共により良い結論を得るべく、全力で努力することをお約束いたします。